

キラリ通信



木津川市母子会の活動を始めて35年! 母子会会长の小玉光子さんにお話を伺いました!



小玉光子

木津川市母子会会长

木津川市キラリさわやかフェスタ実行委員会委員長

— 木津川市母子会の活動を始めた「きっかけ」は何ですか？

私がひとり親になった時に、子どもがお世話になっている保育園から声をかけられたのがきっかけです。あれから35年も経ったんですね。

— どのようなことをされていますか。

コロナ禍以前は、毎年、夏休みのバス旅行、クリスマス会、卒入学・進級を祝う会などを実施し、お母さんや子ども達との交流の場を作っていました。残念ながら昨年度からは今までのようにみんなで交流する場ができず、少し寂しい思いをしています。日常生活支援事業では、残業で帰りが遅くなるお母さんに代わって保育園等にお迎えに行き、お母さんが帰宅するまでの保育や食事の支援、お母さんが病気された時の生活支援などを行っています。また、京都府の委託を受け、子どもの居場所事業（主に学習支援、夕食支援等）を週2回実施しています。

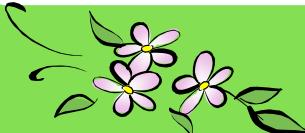
— 大変ご苦労もありだと思いますが、今後の課題についてお聞かせください。

若いお母さんは、仕事・家事・育児等を一人で担い、経済的にも精神的にも余裕の少ない状況で、母子会活動への参加も難しくなってきています。役員も高齢になってきている今、若い方が参加したいと思う“役に立つ会”になるようにと日々模索中です。

— 平成26年度から実行委員長をされている『キラリさわやかフェスタ』について、どのように感じておられますか？

木津川市内に女性が参加する会や団体がもっとあってよいのではと思っています。女性は、仕事に加え、家事・育児・介護など様々なものを両手に抱えて過ごしていますよね。育児に協力的なパパはイクメンと評価されるが、ママはどうでしょう？毎日していることを評価されていますか？木津川市は近年若い世帯が増え、以前に比べると市民の意識は少しずつ変わっているのかもしれないですが、まだまだ男女共同参画の意識は低く感じます。ジェンダー平等の意識を日々の生活の中で広げていきたい思ははあるのですが、どのようにしていけばいいのか悩みますね。これからも委員の方を中心に協議を重ね、男女共同参画のよりよい啓発の仕方を探り、次世代に繋げていきたいと思っています。

— ありがとうございました。



これから母子会について熱く語られ、お母さんや子ども達の生活を第一に考えておられる優しさと強い思いを感じました。“継続は力なり”を実践されている小玉さん。女性センター館内の男女共同参画週間の展示を見て「男女共同参画ってわかりにくいけど、わかりやすく展示している」とおっしゃってくださいました。今後の更なるご活躍を楽しみにしています。

「女」と「男」役割を決めつけるのではなく個人に合った生活を！

コブつきオジさん

著者：奥山 和弘
(2000年4月 第1刷発行)

今は昔、絵師が妻と3歳の女の子と3人で暮らしていました。妻が勤めに出てからは、絵師が家で仕事をしながら家のことや子どもの世話をするようになりました。一方、隣の家には妻と13歳を頭に3人の男の子と、親から受け継いだ豪華な屋敷に暮らす男がいました。男は絵師が家事をしているのを良く思っておらず、子どもを背負いながら洗濯物を干す姿を見かけた時には陰口をたたいています。

ある日、絵師と子どもが出かけていると急に雨が降ってきたので古いお堂に駆け込みました。そこで、都で流行っている格好をした若い娘たちに出会います。娘たちは、「やっぱり親と一緒に住んでスネをかじっているのが一番」「一度は結婚してみたいけど、暮らしぶりを下げるまでしたいとは思わない」「結婚してからも働き続けたいとは思わない」と話しているのが聞こえました。雨がなかなか上がらないので、絵師が子どもに紙風船を作つてあげると喜んで遊んでいましたが、若い娘たちの方へ転がつてしまい一人が拾ってくれました。若い娘たちが二人を見て、「オジさんは、奥さんいないの?」「いえ、働き出ているんですよ」「家にいる方が楽なのに」「お互い、この方がいいんです」「うそなんだ」。それからは、現代っ子ならではの考えを聞いたり、家庭のあり方や自身の子どもとのかかわりの反省から学んだことを話しました。そして、絵師のことを最初は『カッコ悪いコブつきオジさん』と思っていた若い娘たちでしたが、話をしていくうちに絵師が家族のことを考えて家庭を支えている姿を『カッコいい』と思うようになりました。絵師の子どもとすっかり仲良くなつた若い娘たちは、その後、絵師の家に来て子どもの遊び相手をしてくれるようになり、妻とも家族ぐるみで付き合うようになりました。絵師の家に若い娘たちが出入りしていることを羨ましく思った隣の男は、自分もカッコいいところを見せようと、若い娘たちを家へ誘い、「お客様だ、すぐにご馳走の用意をしろ!」と妻に命じます。次に呼びつけた息子が「ンだよオ」と不満そうに現れると、父親の威儀を見せる格好の場面だと思った男は「それが父親に対する態度か!」と一喝し頬を叩いたが、「今さら何言ってんだよ。俺のこと何も知らないくせに」と言われてしまい、結局、その偉そうな物言いや振る舞いは、「カッコいい」ではなく「カッコわるい」姿として若い娘たちに見せることになってしまいました。

※物語は長いため省略しています。

お話を通して男女共同参画について考えてみませんか？

この物語にはジェンダー平等の視点から様々な問題が見えてきます。

- ◆夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという思い込み ⇒ 性的役割分担
- ◆暮らしぶりを下げるまで結婚したいと思わない ⇒ “新・専業主婦志向”(※1)・パラサイトシングル(※2)からくる女性の晩婚化・少子化要因
- ◆再就業の環境が整備されていない ⇒ 社会進出の諦め 等

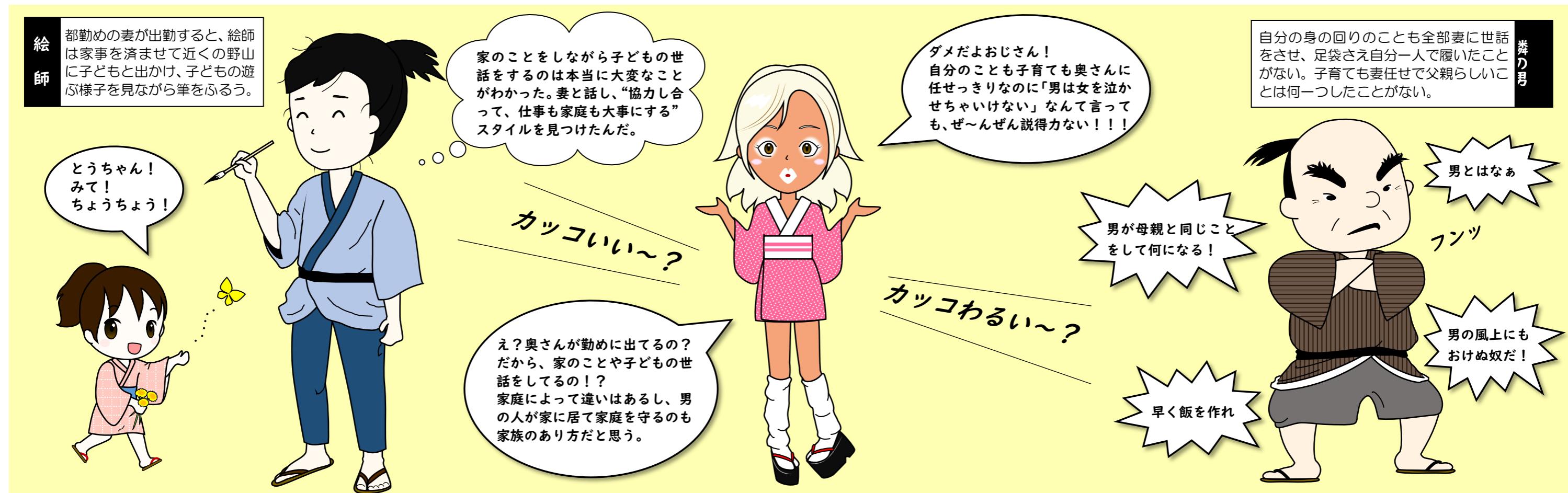
男性も女性も“らしさ”を求められるあまり、仕事や家庭での重責から生じる精神的負担等が生じてきます。固定的な役割分担意識による決めつけは男性が家庭生活や地域生活を楽しむことを難しくしたり、社会参加の意欲を持つ女性が様々な分野で活躍することを困難にしていることもあります。

性別にかかわらずひとりひとりの個性や能力が發揮できる社会になるように、まずは生活の中でのアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み・無意識の偏見）に気づくことから始めてみませんか。

(※1) 新・専業主婦…最近の未婚女性は配偶者に対して何よりも「十分な給料」と「家事への協力」を要求する傾向があり、「男は仕事と家事、女は家事と趣味（的仕事）」という傾向が強まってきている指摘があります。（小倉千加子＜平成10年度『厚生白書』＞）

(※2) パラサイトシングル…学卒後も親と同居し、基礎的生活条件を親に依存した上で豊かな生活を謳歌する未婚者（山田昌弘著 平成11年＜パラサイトシングルの時代＞）

著者は、高等学校教員から静岡県教育委員会に入り、男女共同参画の啓発を担当したことを契機に、昔話の枠組みを借りて現代的なテーマを分かりやすく解説しようと作成しました。誰でもが知っている昔話ですので、「男女の役=性差の否定（中性化）」や「昔話の書き換え=文化・伝統の破壊」という批判もあったようです。しかし、著者は、決してこの作品を子どもたちに与えると主張しているわけではなく、あくまで気づきのために制作したと言い切っています。著者自身、共働きでありながら、それまで家事を任せていた自分自身への問いかけでもあったようです。



男女共同参画週間 <6月23日(水)~29日(火)>

令和3年度男女共同参画週間キャッチフレーズ

『女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ。』



男女共同参画週間は、毎年6月23日から29日の一週間で啓発期間となっています。

啓発期間には、街頭啓発活動やDVD上映会、広報誌への掲載、男女共同参画啓発パネル展示及びパンフレットの配架（※写真）を実施しています。

※今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭啓発活動は中止しました。

女性相談

ひとりで悩んでいませんか？

女性センターでは、女性の様々な問題をともに考え、自分自身の力で一步を踏み出していくだけるようにお手伝いします。
相談はすべて無料。秘密は厳守します。安心してご相談ください。

一般相談 <面接・電話>毎週金曜日（祝日を除く）午後1時～3時
女性相談員が、あなたの悩みや問題をお聴きします。

こころとからだのカウンセリング <面接のみ> ※要予約
女性の専門医が、あなたのこころやからだの悩みの相談にあたります。



木津川市 市民部 人権推進課

木津川市女性センター

〒619-0223

木津川市相楽台4丁目3

☎0774-72-7719

利用時間：午前9時～午後5時
休館日：月曜日・祝日・年末年始

